

3 研究会「観光戦略研究会」

観光戦略会の研究経緯

観光戦略研究会

研究員 大澤 健

(和歌山大学経済学部助教授)

前年度の研究成果から、観光戦略は単にアクセスの改良や目玉を創りだすことではなく、「観光地」としての地域の魅力を創出する点であることを確認した。

本年度の研究はこのような基本的な前提をふまえた上で、戦略作成の事例として和歌山市を設定し、具体的な戦略を構想するための基礎的な調査に当てられた。

観光地としての地域づくりと言う場合、その戦略作成には次のような基本的諸点についての調査、検討が必要になる。

1 観光産業が和歌山市において占める位置づけの確認

- ・観光客数と消費額の確定
- ・経済的波及効果の大きさと市経済に占める規模

2 市場調査とセグメントの把握

- ・和歌山市を訪れる観光客の特性の把握
(来訪者の居住地、年齢、性別、目的、行程、旅行形態、消費行動)
- ・市場ニースの把握
(観光客が和歌山市に求めているニースの把握)

3 地域イメージ、地域が向かうべき姿の提示

- ・現在の和歌山市の魅力、長所の確定(外部・内部双方の認識から)
- ・潜在的なものを含めて、「観光資源」の洗い出し
- ・競合観光地との差異の検討

4 観光地としての和歌山市のポジショニング

- ・和歌山市が観光地として提供すべきサービスの確定
- ・和歌山市が地域として醸成すべき「魅力」のイメージを定める

5 地域づくりのための実施体制

- ・行政の役割

-
- ・観光協会の役割
 - ・地域企業、地域組織の役割

本年度の研究は上記の1・2・に向けられた。

1．について

社会経済研究所が以前に行った観光客の消費行動調査を元に、観光客が市内観光産業へ支出する経済規模の大きさを算出した。また、その波及効果計算を行うことで、市内経済に占める観光業の比重を数値的に確定した。

2．について

夏シーズンと秋シーズンの観光客の動向を調査するために、8月と10月に市内宿泊施設の滞在客を対象としたアンケート調査を実施した。

アンケート項目は

- ・観光客の旅行行動に関するものとして、
 - 「目的」「市内の来訪地」「利用した交通手段」「宿泊数」「帯同人数」「旅行形態」「宿泊施設選定の理由」「観光情報の入手ルート」「旅行予算」について調査した。
- ・和歌山市の魅力に関するものとして、
 - 「自然」「歴史」「雰囲気」「食事」「ホスピタリティ」等について段階評価をしてもらうとともに、競合が予想される観光地について比較をもらった。
- ・旅行者の性質を確定するものとして
 - 「年齢」「性別」「居住地」を調査した。

これらのアンケートを集計することで、和歌山市に訪れる観光客の性質と行動、ニーズを把握することを目指した。

次年度以降は、本年度の基礎的な調査を元に、和歌山市の観光地として向かうべき姿を検討するとともに、それを実行するための組織・戦略の策定を行う。